



花のさかりももかろくれ 津海山のさくら
引^ひき^き 舞^まい^い 山^{やま}よ^よと^とど^どろ^ろろ^ろふ^ふと^とと^とれ^れき^きり^りの^のな^なれ^れ
津宮とをみとせし川のせりおあけ
りく。あひーちりー



いんせつがけーあまのついでに
さくろとみれつらんめえん
神らおとめふあつたれさる
あはいうらんりーあひーあひ
風乃交の花にまりなく。あまをた
ふとらん

あはまは花をわけていんせつ

西行中



と海と風の交りて
月と星の交りて
おがらひて
さくらかりたれ

まぢりちの月との
あつたれ
そのお月
さくらたの風

らりうら
かき

神風
さくら
まじり
おがらひ
さくら

なる。古折も一念の過とわこせせの焼失
 ともつり。又不絶菩薩の。あはれ之とてま
 止我深教汝等不敢狂悖。不者何汝等皆
 狂弁た。とくが。礼。奉。教。一。法。さ。ま。た。み。を
 利地と。し。ひ。ひ。一。佛。乃。修。行。名。汝。なり。自。今
 以後も。か。あ。事。の。あ。へ。一。た。ひ。よ。ら。る。一。つ
 ぞ。な。れ。が。ん。ら。ハ。教。へ。ぬ。ま。ま。と。く。東。あ。へ。と。い。れ
 たる。あ。の。同。行。の。入。り。も。西。行。の。な。れ。の。あ。り。さ。は
 とも。む。い。お。く。ぐ。れ。事。と。く。く。ふ。う。く。お。い。く。ま
 あ。も。と。つ。り。と。も。わ。れ。か。る。西。行。の。は。い。と。も
 月。行。の。入。り。と。は。ひ。ひ。す。て。ま。り。な。れ。た。年。あ。ら

あひなれ。一。の。な。れ。さ。ま。ら。る。な。れ。い。行。く。や
 な。れ。た。き。も。一。人。小。和。山。中。あ。く。の。戸。の。時。神。乃
 止。ま。り。り。ゆ。り。て。着。い。色。見。我。心。喜。於。未。成。光
 人行。邪。乃。不。能。思。如。來。と。礼。ね。して。ま。り
 山中。と。あ。り。て。か。か。ん
 年。を。と。け。て。又。あ。へ。一。と。な。ひ。い。や
 命。な。り。り。さ。や。の。中。山
 年。ひ。ら。ら。あ。は。の。凡。乃。か。り。一。足。て。う。記。事
 年。大。井。川。志。う。い。の。た。ま。と。け。か。ら。ま。も
 年。も。と。さ。海。ふ。と。い。そ。め。の。神。か。り。し。あ。り
 年。整。く。た。り。と。い。の。國。お。は。い。さ。あ。く。や

とが現る。ちのかりととも。あゝ海が
をばほして

秋の月と人はいはじり秋とあはれを利

み山のまをば凡そなまらさる

おのれは秋の月をいふのわれは

すそ海の上のかがりかざらん

あゝとほしきふはひてさぶりの

あゝのれはものごとくふかり

ひかりのひらの中おぼげさくてふみちゆふ

あかしのわたりがかりおくとがらあきらむのゆ

きよとともはしむひらく人あひさるらる

清見の月の上付ねれたまきのながらみさのゆ

くさけの月のひらきながらみさるらる

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

清見の月の上付ねれたまきのながらみさのゆ

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

おのれの國の月をいふのゆ

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

あゝとともはしむひらく人あひさるらる

西行

出づにけし山に海を渡るも一島のうらさ
 いあてしあ一山もくちらしてむけく
 風りかひくゆのまりのせよこして
 夢く来もあぬ我ぢひ那
 山も海もあやう地はあらし
 かしら山にやうてじり実方の中物
 名もあらしの山をれと詠文は霧山源
 一
 山も海もあやう地はあらし
 かしら山にやうてじり実方の中物
 名もあらしの山をれと詠文は霧山源
 一

かたしらりたりよりの風

さかた国にがらむふ所くさるあともく
 小ぢの勢のいりも風りこそあがの
 かくしあさあなれ
 あしまたくしれまげこは流まこあ
 ころりあふもさるあさり
 その夕くれかふふさ人の時さひま
 一
 心を死方母もあられさくれ
 志さるるあさひの秋乃夕くれ
 山ては流くよふさよあもがけし月

ありたるよま入るり。わしく寝す。お月之後
かきみ。おこめてが。わかきにもわくも。か
えてきて。おぼえん。まひ。母は。たふひ。まひ
ゆんと。ら。さ。り。人の事。たひ。ひ。出。ま。い。く

みやこ。み。く。月。を。あ。し。れ。と。あ。ひ。い。い

か。さ。い。も。あ。ら。ぬ。ま。ら。ひ。か。り。を。料

ね。見。も。ま。ら。さ。り。を。死。て。い。な。つ。の

人。あ。こ。ま。ひ。袖。ぬ。く。と。も。ん

か。さ。て。け。が。の。う。い。ぬ。ぬ。い。つ。ら。か。ん。と。よ。お。お

お。ま。と。し。死。て。お。る。船。中。と。す。く。ね。ふ。し。と。あ。り

か。の。墓。の。見。も。あ。ら。ぬ。ま。ら。り。さ。り。さ。り。い。ま

わ。ま。い。い。う。れ。ぬ。ま。ら。り。を。お。同。れ。れ。あ。れ。か。ん。さ

祢。この。中。お。も。さ。さ。さ。く。い。人の。い。ま。ら。や。い。よ。と。あ

て。わ。く。れ。よ。た。は。て

ま。ら。し。せ。ぬ。を。れ。名。さ。ら。り。と。さ。め。ま。て

く。れ。燈。の。す。ま。死。く。い。見。あ。そ。み。る

ま。ら。か。い。や。わ。さ。小。命。の。病。い。ま。て

時。今。や。そ。れ。し。と。く。ま。な。う。れ。ん

わ。く。海。屋。門。家。あ。い。ま。と。う。い。海。ま。い。れ。都

の。海。し。い。い。流。ま。い。の。死。く。が。ら。じ。へ。い。と。と

た。け。い。ま。て。お。ね。い。出。羽。法。具。ま。圍。と

あ。い。入。び。う。ら。り。と。い。ふ。あ。う。い。と。見。ゆ。り。さ。り

ひてひくさく威勢のそのつりなりか福て
しり。奇のみらりながらなるまかすもすさつり
うく。福のあか。あひひさきつりをれん。
ひて結く。結ひひ。面して我之祖より。今
みつ。面まて。面ひ。ようやう。ね。事かかん。
ひく。よのひひか。し。も。て。か。り。わ。り。時。び
てひく。が。り。り。る。を。使。く。さ。い。よ。び。圓。く
下。り。結。へ。目。慈の百首。さ。さ。り。り。事。つり。
し。見。て。結。り。り。か。ん。屋。と。び。ひ。多。れ。も。こ。く
い。か。こ。て。よ。使。り。り。る。あ。り。り。星。の。し。使。あ。よ。の。ま
く。あ。く。ん。て。り。り。星。の。し。と。か。ん。む。ひ。出
て。わ。い。し。結。つり。り。り

きそそめく。あ。る。ふ。あ。さ。れ
ち。い。り。ま。い。く。さ。ん。ち。い。せ。ね
あ。と。れ。い。ん。の。し。と。か。ん。あ。よ
う。い。ん。あ。あ。の。あ。神。那
を。使。し。か。れ。つり。り。し。人。と。つり。ひ。せ。く
ふ。や。月。と。つり。り。し。る。那
わ。れ。れ。と。く。人。の。あ。つり。あ。な。さ。け。わ。れ。さ
か。と。か。い。ん。あ。は。い。り。な。け。い。と
き。れ。め。あ。い。き。こ。ら。や。と。ま。い。ひ。の。あ。い
あ。あ。い。て。き。と。わ。け。あ。ま。い。り。ん

西行

あやうこの命もくかたぢいひし
をなすりもり我ふ那

かてて又三年一とまゝまゝ活あへさう。秀瀧
りたれたむじやくかりとむりひて秋のともつ
こよかりて出よかりわろこよけのたにふ
乃ふなすりまゝりなりもりふ福やれ。秋風
身あしこゝろりしものこ急よりむくしむれ
うたはしい

ふりくせはれさじよ秋のかりまじよ
よつろくまのうばさかりゆ

おなぐれたよりのぞれよふれとくそそのい
そよよとほるおれよなほくして

はひひももろゆがそくせむくろ
藤のをせくもれらるれ
うにかりしそむいかりしむわんしが
月とかりうそらうのくれり

やまむらりなれみふくろ。あつこもりのふた
ひらりみやこのえむむく福あつあつ。
喜柳のこもむしあさうへまう。秋しむハ
こく記福。柳と人かへをるり。秋しむハ
たはくれ人さうひとゆさもなすしむおが
ひゆしあしあをなすしむさうりなり

ひこり比り草のまろくれうけりふ

かさねの梅のふかひかりなり

山崎のこころひけてあじろ燈

さくひりたてるおれと柳

かて山崎とけいひひびく福の月

免しうりすゝ美濃國すてのかりそりくる

さよら捨かろくも勢のふれ事とも希くそく

てそめこの便り那とうちあつまは行かか

とん二秀三教もやはれてす記なれ

いぢりきたに都へゆへはしとてん

しんをくしそる膝のわんれと

あつあつとせり命かれい三きひ四里ふ

出り勢のわりこはとんまはなれいさつ門

そまらしとあゆの勢もやれおれくこかりたそ

は十余年乃りうりぐくP見くがししひり

ひし人しとあしあみかあゆのたをのそり

このかり。おれ山のわしこの勢と。さくそそ

かしと。名のこわさちふ屋し。さつ。おれ。ま

と記。そのすしと。さく。おれ。ま。おれ。ま

あつ。むら。の門。草の戸。あつ。の。おれ。ま

けの。おれ。ま。おれ。ま。おれ。ま。おれ。ま

おれ。ま。おれ。ま。おれ。ま。おれ。ま

我力いふふら七げまかくのうしははんと
わさきしくたはくしてたを相ちふたよごん
歌鳥の南枝よもとふと。厚んの能信よあつ
とまごふんうーびんしてびふりさるる事。我
ふかろくも。うまそてしくたはくして

敷かろぬもとまあ海のりちふか

ううれてき又思りさふ多利

あれを足しじうーすんたるなとかなん

よもれの海うー月のうれる

やーあ海ちりきりたる人のもとあはれい

うらふふたごいびやう後うかりさて。世腐る

中。か死やうりたれ。西行がう海よまきうーふ
かさけりたり

か死わやののかもけりよれもかおそて

さううううあひいーのうーめ

あ中し。かおをまきぞうりくから。事のもあ

うう。う海みされたれ

ちるうか死いしものしはあひよりぬい

人目行して物おもひや

あしれとくさか人のかをかうらん

拍あふ海とのしん死のうら風
あかりまきか海山あうりけりん

のあつりて。物いいて。妻子孫愛ふんとやむ先
火宅と出がりぬ。それ親のけ井ふ。何よきさうい
月ハまぐらふ。小る。昨日ハ一人ハなす。風
乃まんのさ。一火い。あづのけ。教すがた。一
あつりて。いと。就して。臥燃と。さうい。い。せ。て。も。
出家と。こけ。山林。海。海。乃。新。と。え。と。く。乞。食。頭。
笑の。カと。か。ん。せ。ん。と。も。能。走。良。然。の。カ。な。と。
海。の。事。と。し。と。ん。れ。ど。い。ま。ま。て。一。出。家。と。や。げ。
然いぬ。人。う。ま。れ。の。そ。う。き。ん。ぬ。へ。一。人。自。身。は。
女人。か。り。と。し。て。た。か。か。し。と。も。當。來。の。佛。子。あり。
此。の。よ。く。文。と。だ。ら。ら。終。へ。と。く。

物重西人。各他方便。唯緣。深。深。得。物。樂。
若有重業。淨。無。生。淨。去。因。業。深。深。取。力。必。
生。安。果。因。者。ふ。び。文。と。し。と。し。終。へ。と。く。と。を。も。
ひ。よ。え。く。み。な。し。ん。ま。と。と。か。さ。り。か。り。淨。去。よ。
や。が。持。を。と。ま。り。と。し。と。し。高。極。山。ハ。弘。は。大。竹。
入。意。の。み。ご。り。深。勤。慈。孝。下。生。れ。佛。去。か。り。さ。
ま。は。い。山。の。ゆ。り。と。い。わ。り。終。へ。と。く。一。異。地。あり。
は。う。母。い。わ。り。り。り。と。さ。く。終。へ。と。く。佛。の。
と。の。り。終。へ。と。く。と。く。し。終。の。居。ふ。な。く。く。
尸。ま。り。我。に。藏。め。と。て。父。り。す。え。ら。れ。せ。め。で。
母。よ。う。く。れ。そ。と。て。ま。り。と。く。中。ま。の。開。ふ。ゆ。い。

西下

すてふにあらねとてまうんてくひの草の
おほいしてはては人の世とまはりけれは
みらかりのゆゑかかへていふに
かづりの像と見るふしけりてと
とてふたさあまてせくははようつれまは
んがらりかしくおひさかたうしとてさて
のこのぬが事なれまかみり給々かう
行いよりごまを後の世れはういひ
ておらばもてゆりていこる

こつやとおひいしそかけり
びりオウのうれりありせし

高のふしけりとなへ生年サヌのどく仙洞の
小面と出く妻子は實とありてて佛亦と
ひりひてあぶさと。うりはく火免と出くス山
のむくの産とあはくふとハ切水より
たしと九糸の澤刺よける後よ、徳園を
際し山林計敷の約と立て平等一子のび
おぼして前生の扱よあうひて教化とあへ
はよよ慈恵のあしとの上よ、親表のた
どのひ。悪厚の。あしもうり。母は。善價の
実の玉とほくこかて。み十余年とてせ
く若人。目一糸とあるよ。八億とみ方の

わりのちうれは懺悔六根帰のたのめは三十一字乃
中一のしとくちらとさうし。びんをなうく。佛道
と成と成妹なりと親して。東山のかより。髪
林ちのさうさう。おかりとじまひて。ごらん神のまき
乃まかた。三の月乃ひりともなう。梅名のゆ
かのほりよ。せいし。もまはひらひと結く。わ
らじらり。はきし。のみさうさう。さうさう。これ
そりあつよ。なま。く。びんをなうく。秋入祿えん
乃日。二月十五日のあさ。誕生とさひて。くなん
祿うく。い記の。と。ま。ま。志。れん
それさう。記の。り。月。の。あ

すてお。六昇。れ。と。く。遠久九年二月十五日。お念
ま。く。西。の。し。ひ。ひ。て
若人。教。心。乃。と。一。記。供。書。像。漸。見。母
親。佛。抄。此。命。終。即。出。安。果。世。界。何。休。後。佛。大。美
薩。那。園。饒。住。か。ま。か。ん。て

か。さ。け。か。は。さ。う。れ。記。と。そ。ま。う。れ
我。後。乃。世。と。ん。と。う。う。ん
と。か。う。め。く。子。五。念。佛。座。じ。事。か。く。を。伎。樂。の
と。や。が。の。ふ。美。考。と。は。く。も。ん。じ。う。ん。も。は
か。よ。た。か。び。ひ。さ。て。二。考。本。座。の。し。て。か。ひ。志。や
ぶ。も。く。う。ん。ぶ。ろ。ぶ。り。き。あ。民。耳。同。と。た。れ。と。路

明。生まれそふいといふ。さびふかり。さて高野のゆ
 もや。おに。驚き。わり。る。西。約。園。の。あ。り。ふ。
 ら。み。た。じ。る。く。ふ。海。さ。り。を。と。る。心。は。し。り。た。め。あ。り。て。た
 と。こ。聖。宮。の。時。を。あ。り。て。は。ま。久。お。に。聖。と。う。ふ。お。よ。こ
 と。り。あ。つ。の。は。く。あ。り。と。う。さ。く。事。と。い。ふ。ひ。成
 祿。ふ。い。び。う。ん。と。な。い。が。ひ。の。の。じ。と。め。の。あ。り。を
 ぞ。ん。と。い。ふ。さ。し。て。ぞ。う。り。と。か。ひ。の。く。わ。た。は。け。念
 佛。を。じ。事。な。く。祿。あ。り。あ。り。し。て。生。ま。れ。と。
 若。ふ。り。の。じ。と。め。の。あ。ま。し。一。生。不。死。乃。力。と。て
 西。治。一。年。八。月。ひ。ぐ。ん。の。ひ。あ。れ。し。生。ま。わ。り。く。り。て
 万。一。い。ざ。い。ふ。かり。あ。り。は。生。の。後。み。や。の。内。の
 丹。一。丸。を。と。ら。わ。せ。と。あ。り。し。神。と。あ。り。ぬ。は
 か。り。り。り。中。か。し。た。を。の。中。の。定。家。美。提
 院。の。三。位。中。の。の。し。へ。あ。り。生。れ。ま。し。と
 一。あ。り。る。は。く。り。

一。ら。月。の。あ。は。れ。ハ。キ。り。る。あ。り。そ。う。な。れ。と
 さ。う。え。ん。ん。や。ま。の。り。あ。り。か。な。し。も
 三。位。の。中。の。の。深。の。あ。り。り
 ひ。う。え。の。あ。り。と。う。く。か。そ。か。く。さ。じ。り
 き。く。ん。む。た。い。の。あ。り。た。れ。と。ま。

寺町並言願寺前
 安田十兵衛開板

西治一冬

